

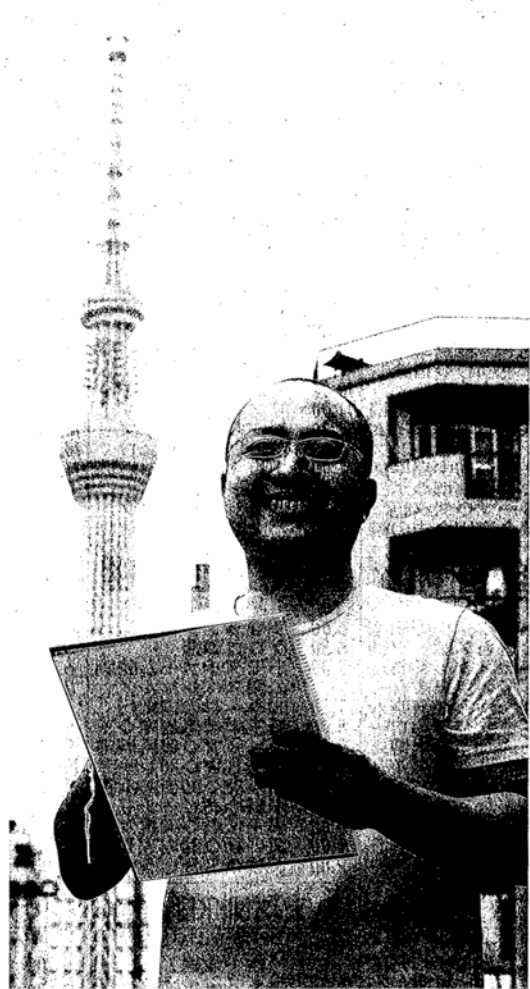
ツリーと私  
開業5年  
田

極細の面相筆で一筆一筆、丁寧に塗料を重ねていくと、縦12センチ、横8センチの黒草地にツリーが浮かび上がった。サイズは小さいが、建物の構造が細部まで描かれたツリーは堂々としている。

東京スカイツリー(東京都墨田区)に併設する商業施設「東京ソラマチ」で購入できる人気商品の革製パスケースだ。「1日半から3日かけて仕上がるのは1点。こういう細かい作業は性に合っている」。商品を納める障害者就労支援センター「ひだまり工房」の丑井俊英さん(30)は、精神障害を持ちながら4年半、パスケースにツリーを描き続けてきた。

高校を数か月で中退し、定時制高校での再チャレンジを目指して受験勉強をしていた16歳の頃、突然「自分が誰かわからないような感覚」に襲われた。感情をコントロールできずに家族とぶつかったり、気が湧かずにふさぎこんだりを繰り返した。元々、画家志望で絵画教室でデッサンを学んだこともある。22歳で定時制高校を卒業し、自立のきっかけをつかも

# 描いて人生上向き



うと、地元の介護施設でお年寄りに絵を教えるボランティアを始めた。ただ、それ以外は自宅で絵を描く日々。「自分は社会の役に立っているのか」と自問自答した。「スカイツリーを描いてみないか」。かかりつけの医師

から誘われたのは、ツリーが開業した2012年の秋だった。通院するクリニックと同じ運営母体のひだまり工房は、障害者の自立支援として、手作りの雑貨をバザーなどで販売していた。丑井さんは、パスケースの絵付けを担当す

ることになった。自宅から見えるスカイツリーを強く意識したことはなかったが、試しに下絵を描いてみると、その精緻な構造に魅了された。客に好まれそうな図案を研究し、新たなデザインを夢中で考えた。これまで描いたパスケースのデザインは50種類以上。絵付けに集中することで、最近はずいぶん安定してきた。即興で絵を描くイベントにア

①パスケースの絵付けを担当する丑井俊英さん(16日、東京都墨田区で) ②ツリーが描かれたパスケースとともに若杉和希撮影

## 人気パスケース 障害抱え 絵付け熱中

東京スカイツリーに併設する商業施設「東京ソラマチ」は、人気のファッションブランドや老舗料理店など、300以上のテナントが入る東京東部で最大級の集客施設だ。東京ソラマチのほか、小笠

原諸島など東京の島嶼部をイメージした大きな水槽が目玉の「すみだ水族館」など、関連施設群の総称は「東京スカイツリータウン」。タウン全体の来場者数は今年3月末で約1億8353万人に上る。

テイストとして招かれたり、障害者アートの公募展で入選したりと活躍の場も広がっている。ツリーがなかったら、今の自分はない」というほど、心の支えになっている。ひだまり工房の仲間と一緒に作ったパスケースは1500点以上。下絵を含めると、数えきれないほどツリーを描いてきたが、実はツリーに上ったことは一度もない。「もう写真を見なくてもツリーを再現できるけど、描いてみたい構図が残っている」。自分が納得できる表現にたどりついた時、展望台に上るつもりだ。